

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム白寿荘
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	奈良県五條市今井1丁目1番15号
記入者名 (管理者)	前田 直敏
記入日	平成19年9月16日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域の人の関わりを大切にしていき、地域福祉の向上に寄与する事を第一とし、常に企業としての存在価値を高める努力を安定的かつ継続的に行う。</p> <p>個人の意思や人格を尊重し、サービスの個別化を実施すると共に、「自分らしく暮らし続けること」(自立支援)を念頭におき生きがいを提供し、心身共に安らぎのある生活空間の構築を促進する。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>利用者個人の生活習慣を大切にしていき、共同生活という空間の中でも「個人」ということを大切にし、人格を尊重しサービスの提供に心がけている。日々、理念の下職務遂行できるよう、出勤時、黙読を実施しています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域住民への説明会(総会)や家族に対してサービス提供の在り方等、各利用者の家族様に対しての説明・理解を十分に行っています。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ご利用者との散歩や買い物時、常に出会う人達に挨拶を交わし、親近感をもってもらえよう、心がけています。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会加入については、自治会長等にも打診しているが、加入戸数等の問題で、自治会側からの回答が無いため参加できない。</p>	<p>一日も早く加入し、地域に密着したホームとして地域に貢献していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる			地域内の独居老人等を把握し福祉マップを作成し、災害時等に自治会その他関係機関と協力し、災害防止に役立てればよいと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価を受けるに当たり、評価内容や自己評価の項目内容等について、全体会議等で話し合いを実施		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議の開催については、諸問題等により未開催		家族・行政・地域との連絡を密に行い速やかに実行していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に窓口へ行き、日常会話や介護相談等、事業所と市町村との間に壁を作ることなく、日常的に関わりを持っています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在入所中の方で、成年後見制度を活用されている方もおります。		社会福祉協議会とも連携を密にし、制度の理解を深めるため研修会や勉強会の機会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への言葉使いや、態度について日々観察し、事業所内での職員による虐待が発生しないよう最善の注意を払っております		行政とも連携し、研修の機会を持ちたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には、施設利用に関する事項は細かく説明をし、理解・納得された場合において契約をしています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者自らが利用者様に意見や職員に対する苦情等を問いかけ、問題がある場合には、ユニットごと又は職員会議の場で意見交換を行っています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご利用者の状態の変化や日常生活状態などは定期的にご家族へ連絡し、報告及び相談をさせていただいています。</p>	<p>ホーム新聞等を作り、毎月家族様へ行事報告や近況報告ができればと思っております。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会等を設けているわけではありませんが、家族様の面会時等において、相談や近況報告等をさせていただいています。</p>	<p>年に1回程度、家族会を設け、家族同士の交流や施設に対する意見・要望等をお聞かせできるような場を作りたいと思っています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に職員会議を行い、意見を述べる場を提供しています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ユニットに合わせた勤務体制を組み、必要に応じて配置の増減を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動等はなるべく避け、馴染みのあるサービス提供を行っています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には施設内研修を行い、一定レベル到達時には施設外研修にも参加を促しています。		施設内研修においてスーパーバイザーを招き入れた研修を行っていきたくと思っています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のグループホームや施設間とのネットワークを広げ、質の向上・情報交換を行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	まずは向き合って話を聞くことを大切にしています。話を聞くことにより問題が明らかになり、本人のストレスも軽減されます。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	入居者それぞれに担当職員を配置し、ケアカンファレンスにおいて、入居者の現状等について説明を行い、主体性を発揮できるよう工夫しております。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談及び申し込み時に、家族様やご本人から現在の状態をしっかりと聴取し、利用にあたってのサービス提供のあり方や介護方法を検討しています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談及び申し込み時に、家族様やご本人から現在の状態をしっかりと聴取し、利用にあたってのサービス提供のあり方や介護方法を検討しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要なサービスを相談の中で見極め、本人に必要なサービス提供の提案をしています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能であれば本人が同席し見学して、その感想等も踏まえたくうでサービスの提供を検討しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者の意見をしっかりと傾聴しその日その時の本人の状況に合わせたサービス提供が出来るよう努めています。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時等の来苑時には、共にお茶をしたり、雑談をし、家族の間に入り、ご家族・利用者様との関わりを深めるよう努めています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	実際に利用者様とご家族との関わりを通し、表情や行動を観察し、介護従事者には見せることのない一面があれば、ご家族に直接アドバイスを求めたり、生活状態を聞き、サービスの向上に努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、面会可能な人や行動範囲の許可などを得ています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々のニーズを把握しサービス提供することも大切ですが、グループ生活の中で、お互いが協力し合って、共同生活を充実させるため、ユニットごと、又は、全体での行事・レクリエーション等に取り組んでいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も、ご本人がサービスの利用に空白が出来ないようにご家族との連絡を継続的に行い、必要に応じたサービスの相談・紹介等を行っています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聴取可能な場合は、希望のニーズに応えられるよう努め、個々にあった生活リズムを提供しています。重度の認知症の方やコミュニケーションがとれない方についてはご家族との相談の上でサービスの検討をしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人面接やサービス提供関係者等からの聴取により実態把握に努めています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の記録や職員間での引き継ぎ・申し送り等を徹底し、個々の状態把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が一同に会してカンファレンスを行うことは勤務体制上困難があるが、できるだけ本人・家族等の意向を反映し計画に反映している。		日常的な生活の場で、利用者のやりたいことや思いを導き出し、必要などときには家族や関係者と連携をとり可能な限り実現へ向けての計画を立てていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しについては十分な計画がされていない。		様態の変化や医学的变化に対し、協力病院やかかりつけ医師、又、家族等の意見や意向を十分把握し、プランに反映させていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個人の記録はPC化し、すべての職員で共有できるよう努めています。		モニタリングの重要性を職員全員で共有し、プランに反映できるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	少人数制の事業所の特性を生かし、柔軟かつ早期の支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	地域の他サービスを希望されている方には、ご家族の了解を得て提供しています。		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	相談に来られたご家族に対し、当事業所が適切でないときには、本人の状態を考慮し、他のサービス利用がスムーズに行えるよう支援を行っています。		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	地域包括支援センターとの関わりは持っていますが、現段階では協働しているところはありません。		
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	受診が出来ない利用者様には、提携医師の往診にて対応をお願いしています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市内には専門医がない為、ご家族の協力を得て市外への受診を行なっています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制加算はしてませんが、有資格者の雇用をしており、職員間の連携を密にしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医院はありますが、無床診療所のため、入院設備のある病院との情報交換はできていません。		地域内外との医療機関との連携を図り、早期の対応が出来るよう努めたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階でのターミナルケアは考慮しておりません。医療が必要になった場合には、医療機関での治療を勧めています。そのことについては、申し込み時や契約前に、ご家族に対し、きちんとご説明をしております。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、対象者がおりませんので取り組んでおりません。		今後の対応といたしましては、医療連携体制を整え、医師・看護師とのネットワークを拡大し、トータル的なケアに取り組んでいきたいと思っております。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時の環境の変化については、ご家族の協力を得て、ご本人の持ち物・家具等馴染みのあるものを空間に配置し、違和感の無いように努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	各利用者様の性格・認知度・精神状態を把握しサービス業としての接遇に努めています。	記録に関してはPC化にしていますが、より一層情報管理に徹底していけるように努めています。
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	自己表現の場を大切にしており、本人の希望に沿った支援が出来るようにしています。	自己主張はされていますが、その中でも「遠慮」「気遣い」などされていることが少なからずあります。それを少しでも減らし、「気楽さ」「馴染み」のある生活空間を提供していきたいです。
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	白寿荘では業務進行表といったものではありません。その日のご利用者の気分・体調に合わせ、入浴や散歩・外出等を行っています。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	特に女性の利用者様はお化粧品やマニキュアなどお洒落をされるととても喜ばれます。希望の色やお化粧品などすべて本人の希望通りにしております。カット・毛染めに関してもいつでも出来るよう、理美容師免許のある職員がおります。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	出来ることはしていただく＝自立支援を念頭に、包丁を持つのであれば野菜を切っていただき、洗い物が出来るのであれば、後片付けをしていただいております。もちろん、食を楽しむということも大切なことであり、嗜好調査を行い、ご本人が食べたい物を献立に組み入れ食すること自体を楽しんでいただいております。	外部から料理人を招き、握り寿司など目で楽しめるようなパフォーマンス的なことも取り入れていきたいです。
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	職員管理の下、お酒・タバコ等、ご本人のご自由にさせていただきます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に問題があるか方は、まず、排泄チェックシートを活用し、排泄のリズム・量・水分量等を確認しながら適切な対応をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各利用者様の入浴の日時は一切決めておりません。ご本人が入浴を希望された時に入らせていただいております。毎日でも可能です。ただし、入浴嫌いな方などに対して週2回は入浴されるよう配慮させていただいております。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の時間帯ではどのように過ごしていただいても原則はご自由です。談話をされたり、昼寝をされたりしていますが、夜間の覚醒については入眠を促しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に趣味を持っていただけるように日々いろんなことを試みて楽しみが増えるよう支援しています。また、趣味のある人は、ご自分で畑を作られ耕作し、収穫したものを皆で分け合い楽しまれています。また、その収穫を楽しみにされている方も大勢おります。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお小遣いは管理制としており、買い物等で必要なときには本人または職員に手渡し利用していただいております。ただし、必ずしも管理制とはしておらず、本人で確実に自己管理が出来る人に対しては本人持ちとしています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出はしており、散歩を日課にされている人もおられます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた場所への外出支援をしています。花見や花火見物も行っています。		ユニットまたは事業所全体で、フルーツ狩りや温泉旅行に出かけてみたいと企画を検討しています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由に出来るような環境を提供しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定していますが、基本的にはご家族・知人であればいつでもご面会していただけます。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則おこなっておりません。利用の際、ご家族にもご説明しております。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室入り口には鍵は設けておりません。玄関・内玄関には施錠できるようにはなっていますが、夜間のみとなっております。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間において1時間またはそれ以下の時間間隔で所在確認・夜間巡回を施行しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものについては、排除するのではなく、あるものとして危険が無いよう対処しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各職員に対し、事故の要因・発生頻度の多い時間帯及び場所・過去の事例などを学習させ、その人、その状況に応じた対応が出来るよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し対応が出来るよう努めています。		マニュアルだけでなく救急対処の研修を受ける機会を設け、危機管理体制の強化に努める。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法的義務な防火訓練は行っていますが、その他の避難訓練は現在出来ておりません。		災害時に備え、近隣住民との連携を図り、危機管理に備えていくよう努めてまいります。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所前の面談及び契約時に、グループホームでの生活をしていく中でのリスクについては、該当されるご家族にご説明しております。		利用後の状態変化が予測される利用者様についても事前に考えられるリスクとしてご説明が必要と考えております。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調管理はこまめに行っておりますので、早期発見・早期対応に努めております。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力薬局より服薬指導を受けており、用法・用量や副作用についてのアドバイスを頂いております。また、服薬に関する相談窓口としてもご協力いただいております。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄の大切さを常に念頭に置き、水分摂取や栄養バランス・軽い運動を日頃から行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生は歯科医の指導の下、個人にあった対応をしております。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは最終的に管理栄養士がチェックを行いバランスを考えた食事を提供しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	出入りの際には、消毒殺菌を行い入室していただくよう、来苑者の方々にも促しています。また、感染症が流行する時期には、特定の関係者以外の来苑・入室はお断わりしています。		各感染症ごとのマニュアルを作成し、職員全体に周知させる。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の確保は、前日または前々日に購入をしています。生物については、当日の購入にし安全管理をしています。衛生面に対しては、キッチン全体に光触媒加工を施していますので、殺菌・消臭・防汚作用があります。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りについては、人・車の出入りがしやすいよう、オープンにしています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当事業所は、自然の光を出来るだけ多く活用し、蛍光灯などの光は明るすぎないようにしています。また、トイレにつきましても、光触媒加工を施していますので、臭いや汚れは残りません。居間や食堂についても季節感が溢れるよう努めています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個人が馴染みのある場所が出来るよう努めています。		より良い空間作りに励みたいです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ、入居の際には、親しみ慣れた家具や寝具を持ち込まれ、洋室または和室と選べる作りとなっています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室は、一括空調ではなく個別空調になっていますので、各居室にあった温度調整が可能です。また、各居室には換気口がありますので換気は常に行えます。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居間・トイレ・浴室には手すりがついていますので、下肢が不安定な方の補助、もしくは、歩行練習の補助といったことにご利用できます。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員は利用者様の補助として生活支援を行っていますので、個人の持つ能力を出来る限り発揮し、自立に向けた支援を行っています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前の駐車場では、小さな花壇で家庭菜園をされたり、昼食を食べたり、バーベキューをされたりして楽しまれています。		地域との交流場所として、お茶会や花火などの催し物を行い、地域との関わりを大切にしていきたいです。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の安全・安心を図り、いつまでも「自分らしく暮らしていける」終の棲家として利用者の方々に思っていただけるそんなグループホームを目指してがんばっております。